



碧南ロータリークラブ週報

第3159回例会 令和8年3月25日(水)

- 会長 黒田 泰弘
- 幹事 永坂 誠司
- 会場監督(SAA) 長田 一希

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <https://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100

- 会報委員 杉浦邦彦・長田康弘・杉浦秀延

2025-2026 年度
国際ロータリー会長メッセージ

**UNITE
FOR
GOOD**

よいことの
ために
手を取りあおう

● 斉 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のお弁当

大正館

会 長 挨拶

失礼致します。

本日はクラブ行動計画推進リーダーの伊藤正幸さんに卓話を担当していただき、大変嬉しく思っております。2024-25年度から3年間の任期ですが、本年度ガバナーの鈴木康仁様が「2年目となる本年度にはアクションプランを実行に移す年としてください」とのお言葉を受けて、大変お忙しい中、お願いをさせていただきました。よろしくお願い致します。

話は変わりますが、ロータリーには規定審議会と決議審議会の2つの会議があります。規定審議会は定款・細則を変更する立法機関で3年に1回行われております。一方、決議審議会ではRIへの要望や提案を毎年オンラインで行っております。

今期は先回の規定審議会から3年目に当たりますので、後ほど細則改正のクラブ決議をさせていただきますが、これはRIの規定審議会に基づくもので、ロータリーの公式規定(RI細則など)が変更されるため、それに合わせて変更するものです。2025年4月に世界各地から約480名の代表議員が集まり、アメリカで開催された規定審議会ですが、主な決定事項について少しお知らせ致します。

2025年規定審議会の主な決定事項の1つ目は、RI人頭分担金の増額です。これは最も議論されたテーマで現在の会費82ドルに対し、増額案として2026-27年度は85.5ドルの(+3.5ドル)となります。その後、+3.75ドルが予定されております。理由としましては世界的



黒田泰弘会長

なインフレと運営費増加で、会費を上げない場合は 2030 年頃までに約 4200 万ドル赤字の可能性があるとのことです。反対意見としては会員減少を加速させる、小規模クラブへの負担増などがありまして、審議会でもかなり激しい議論になったそうです。

2 つ目としまして、新クラブ設立の最低会員数を緩和です。従来の 20 人から 15 人に改定されました。目的は新しい形のクラブ（オンライン・衛星クラブなど）を作りやすくする、若い世代や多様な職業の参加を促すなど、つまりロータリー拡大のための柔軟化政策ということです。

3 つ目としまして、地区大会を「必須」から「任意」にということ、従来の地区大会は基本的に開催義務でしたが、改定後の開催は任意となりました。背景としまして、参加者減少、費用負担、地区ごとの実情の違いなどがありました。

4 つ目としまして、ローターアクトの年齢制限を設ける提案がありましたが、結果は否決となりました。その結果、現在の若者中心だが柔軟な参加制度は維持されました。

2025 年の規定審議会が示したロータリーの大きな方向性を一言で表すと「財政安定+組織の柔軟化」という 2 つがテーマです。主な課題としまして、会員数減少（特に欧米）、平均年齢の上昇、運営コストの増加、新しいクラブ形態の必要性が挙げられ、そのため会費は上げる、クラブは作りやすくする、組織のルールは柔軟化という方向になりました。

日本の代表議員からは次のような意見も出ております。会費増額は小規模クラブに打撃を与え、会員減少をさらに招く可能性がある。また、RI の運営コスト削減も必要という慎重な声もありました。

我がクラブの細則変更に関わることは、12 月の年次総会にて行われておりました中間財務報告を翌年の 1 月 31 日までに行われる会合において発表するというのが主な点です。

最後になりますが、過去に出されました規定審議会の「珍提案」をご紹介します。「例会でアルコールを禁止すべき」でした。20 世紀後半、北米のクラブから出た提案で、理由としまして、ロータリーは奉仕団体であり、酒席のイメージは良くないというものでした。しかし、反対意見としまして、欧州ではワインは文化、日本の夜間例会はどうなる、交流が減るなどの意見があり、結果は否決となりました。また、ロータリーから酒を取ったら会員が減るという冗談まで出たそうです。これは伊藤先生が言ったことではございませんのでお間違いなく。

また、ロータリー史上最大のルール変更としましては、女性の入会を認めたことでした。創設以来、ロータリーは男性のみの団体でしたが、この流れを変えたのがアメリカ・カリフォルニア州の Duarte Rotary Club（デュアーテ・ロータリークラブ）です。このクラブは 1970 年代に女性会員を入会させたところ、RI から資格停止をされました。クラブはこれに反発し、訴訟を起こします。

そして 1987 年、アメリカ合衆国最高裁判所（United States Supreme Court）が、女性を排除するのは違法と判断。その結果、1989 年の規定審議会が女性会員を正式に認めるという歴史的改正が行われました。現在では世界のロータリアンの約 25% が女性と言われておりますが、今後益々の女性進出が期待されるところです。

以上となりますが、本日もよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ ロータリー親睦活動グループバイク日本支部 (IFMR) より「第 2 回 IFMR ジャパン大会青森五所川原開催 2026」のご案内が届いております。
- ・ 地区会員増強委員会より「2025-26 年度「DEI」推進フォーラム録画映像のお知らせ」が届いております。
- ・ へきなん自転車散歩実行委員会より「へきなん自転車散歩活動レポート配布のお知らせ」が届いております。
- ・ 4月1日(水)の例会終了後に理事会を開催致しますので、理事、役員の皆様はご出席賜りますよう、よろしくお願い致します。



永坂誠司幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 59 名 (内出席免除者 16 名の内出席者 12 名) 出席者 48 名	
出席対象者 48 / 55 名	出席率 87.27%
欠席者 11 名 (病欠者 0 名)	

<ニコボックス>

- 鈴木 泰博君 先日よい事がありました。
- 伊藤 正幸君 卓話をさせていただきます。
- 小林 清彦君 2026年4月5日(日)に複合施設CORRINがある鷺塚地区の「ひまわり村」において、恒例の「ひまわり村さくら祭り」を開催いたします。今回は、スギ製菓株式会社 代表取締役社長の杉浦敏夫様をお迎えして、障がい者雇用についてのご講演を予定しています。日頃、大変お世話になっている皆様にも、是非、ご来場いただきたく、ご案内申し上げます。ささやかではありますが、当日会場で使用できる「花見だんご引換券」もお渡しさせていただきます。お誘いあわせの上、皆様のご来場をお待ちしております。
- 竹内 康人君 本日の卓話講師、伊藤正幸様をご紹介します。
- 坂 充貴君 2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

「クラブ活性化について」

クラブ行動計画推進リーダー 伊藤正幸君



伊藤正幸君

どうぞよろしくお願い致します。

先ほど黒田会長のご挨拶にもありましたけれども、クラブアクションプランチャンピオンということで、3年間の任期をいただいております、その間に行動計画を立てて、その行動計画通りに目標・目的を達するように努めております。それで改めて、地区やRIが何を求めているかということで、やはり会員増強が一番なのかなと思います。

そこでお手元に配布させていただきました「ロータリークラブに入ろう！」という本なんですけれども、こちらは高崎RC所属、2840地区のパストカバナーであらせられる田中久夫さんが書かれました。この方が7月に愛知県にいらっしやいまして、スライドを使ってお話しされました。その内容を今日はお話しさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

クラブの活性化を考えるということで、田中さんはクラブを「花」に例え、キレイな花を咲かせるためには3つの要素が必要だとおっしゃっております。

1つ目は「迎える土壌」です。今流行りのDEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）の考え方に通じるもので、クラブの文化そのものを指します。全ての会員が心から居心地よく過ごせる温かい雰囲気クラブであることが、花を育む豊かな土壌になるということでございます。

マズローの法則（人の欲求5段階）というのがあるそうで、生理的欲求・安全の欲求・社会的欲求・承認欲求・自己実現欲求という5段階のうち、クラブの居心地のよさは社会的欲求と承認欲求の充足に深く関わっているそうです。会員がクラブに所属し、仲間から認められ、クラブ内で自分の役割を見つけ、そして「超我の奉仕（サービス・アボブ・セルフ）」という自己超越の精神へと向かっていく。その道筋がロータリーには用意されており、これこそがロータリーの最大の魅力であるということでございます。

2つ目は「蒔きたい種」です。どのような新会員を迎え入れるかが、クラブの将来を左右します。新人・若手を迎えるにあたっては、面接を通じて人物像をきちんと把握し、紹介者・推薦者についても慎重に考えることが大切です。田中さんは孔子による「知・好・楽」の教えを紹介し、ロータリーを「知ること」だけでなく「好きになること」、さらに「楽しむこと」によって、本物のロータリアンになれると述べておられます。

田中さんは安岡正篤さんが説く「モノゴトを楽しめる人」の条件を紹介し、新人に求めたい資質として「バイタリティ」「楽天的（ポジティブ）」「自己修練」の3つを挙げておられます。成功する人の口癖は「やりたい」「チャレンジしてよかった」「別の方法を試してみよう」といった前向きな言葉であるのに対し、失敗する人の口癖は「こんなの無理」「昔は～だった」「また失敗するんじゃないか」といった後ろ向きな言葉であるということでございます。

3つ目は「注がれる水」です。現会員一人ひとりが寛容で公平な心を持ち、全ての会員に温かい配慮を示すことが求められます。田中さんは「自分たちのクラブは充分インクルーシブだ」という思い込みを戒め、本当に全ての会員が大切にされているか、常に自問することの大切さを述べておられます。

クラブにおいて「寛容さ」を阻害する4つの問題点として、どこのクラブにも生息している「老太狸暗（ロータリアン）」という言葉が挙げておられます。「老」はクラブの将来には全く関心がなく、自分のことだけに執着している人。「太」は自分が得することだけに腐心していて、まるで行動（寄付等）が伴わない口先だけの人。「狸」はクラブ・地区等の活動には参加せず、汗をかかないようにふるまう狡猾な人。「暗」はその人がいるだけで周囲が暗くなるような負のオーラを持った人。このような人が好んで集まるクラブには将来はなく、理想のクラブにはワガママな人が安住できる居場所はないということでございます。

また、シニア会員に求められる「自省」として、「これまでクラブに充分貢献してきた」という姿勢ではなく、若手会員に本物のロータリアンの姿を見せてほしいと呼びかけておられます。「金は出しても口は出さない好々爺に徹すること」「若手会員から可愛がられるコツを早く体得すること」ということだそうでございます。

ロータリーの神髄を知ろうということで、「人生の目的」を知ることができ、品格の完成、心を磨くこと、魂を高めること、それが生きる意味で人生の意義そのもの。ロータリーの魅力は自分磨きの旅を経験できることで、その答えは例会に必ずあるということでございます。

大切なロータリー行事である例会の効用は、シニア会員にとっては「キョウヨウ（今日、用がある）」と「キョウイク（今日、行くところがある）」、中堅会員にとっては「仕事、家庭の充実のための人脈（エグゼクティブ・クラス）の活用」、若手・新会員にとっては「未知の業界における多数・多様な人脈を得られる場」として、例会への参加を意味づけることが大切だということでございます。

また、周年事業などのイベントでは全員参加で汗を流し、友情・努力・勝利という「少年スポーツ漫画の成功ロジック」を活用することで、事業の成功と仲間との達成感を共有できるということでございます。

最後に浄土真宗の寺院に掲げられていた一言「あなたのこれまでがこれからを決めるのではなく、あなたのこれからがこれまでを決めるのです」ということで、過去がどうであれ、これからの生き方次第で、全ての過去の評価と価値は変えられる。未来を大切にすることで、現在と過去の意味が塗り替えられる。この言葉は会員増強のみならず、私たちロータリアン一人ひとりの生き方への問いかけでもあります。

今、ロータリーが求めているものは「あなたは誰かの紹介があってクラブに入った」だとすれば「今度はあなたが誰かを誘う番だ」ということで、その意味を全てのロータリアンが理解して行動してほしいということでございます。

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

令和8年4月8日（水）

クラブフォーラム「クラブリーダーシップラーニングセミナー報告」